

| | |
|--|--|
| <p>テーマ</p> | <p>特別支援学校における UDL の実践 ～学びの深化を目指した黒瀬特支版支援のスタンダードの活用 とカリキュラム・マネジメントを中心に～</p> |
| <p>発表者 (所属)</p> | <p>片伯部 葉子 (広島県立黒瀬特別支援学校)</p> |
| <p>【発表概要】</p> <p>本校は、主に知的障害を有する児童生徒が学ぶ特別支援学校である。令和4年度から、学校教育目標「挨拶・挑戦・地域参加」の具現化を図る研究に取り組んでおり、これまでの実践を発表する。</p> <p>主な実践内容は3点である。</p> <p>1点目は、学校教育目標達成に向けて、12年間の学びを繋ぐ系統性のあるカリキュラム・マネジメントの実践についてである。教職員の学び合いを通して、本校の強みや課題を共有したり、児童生徒の実態と照らし合わせたりしながら、年間指導計画や教育課程の見直し、改善を計画的、組織的に進めている。</p> <p>2点目は、障害特性等に応じた物理的支援環境及び人的支援環境の取組についてである。物理的支援環境においては、知的障害や自閉症等の特性に応じた共通した教室環境の整備に向けて、令和4年度に「支援のスタンダード・教室環境編」を策定し、校内全体での取組を進めている。また、人的支援環境においては、児童生徒の不適切な言動や困難さに対して一貫性のある対応や支援・指導の実践に向けて、令和5年度に「支援のスタンダード・授業づくり編(案)」を策定し、それらを活用した研修、実践、評価を行い、専門性の向上を図る研究を進めている。</p> <p>3点目は、分身ロボット OriHime を使った多様な学び、個別最適な学びの実践についてである。自宅療養を続けながらオンライン学習を行っている訪問学級の生徒が、分身ロボットで喫茶「カフェ」の就労体験プログラムに参加したり、地域の祭りで販売の受付をしたりしている。このように OriHime を使用した活動例を取り上げるとともに、UDL における学びの効果を明らかにしていく。</p> | |